

# 本ばこ

ほん

「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。誌面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、「海外の先生にとって使いやすい教材」「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っていると便利な図書・資料」などを取り上げます。

## 一新刊教材・図書紹介

しん かん きょう ざい と しょ しょう かい

※データ凡例 1 著者 2 出版社 3 刊行年月 4 ISBN 5 判型・ページ数 6 定価 7 その他

### ホテルで働く人のための仕事場面に基ついた教材

#### 『サービス日本語—ホテルスタッフ編—』

##### データ

1 岡部麻美子、鎮目怜子、向井あけみ 2 発行: JAL  
アカデミー 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-  
15-7 発売: 凡人社 〒102-0093 東京都千代田区  
平河町1-3-13 菱進平河町ビル1F TEL.03-3263-  
3959 FAX.03-3263-3116 URL www.bonjinsha.  
com 3 2003年10月10日 4 4-89358-550-9 5  
A5判126ページ 6 1,900円 7 CD1枚付き



この教材は、ホテルで働いている人、またはこれからホテルで働こうとしている人で、初級の日本語学習を終えた段階の人が対象です。特徴は、ホテルの仕事場面で実際に使う会話が学べることです。CDがついており、まとまった学習時間とれない忙しい人でも、自分で効率よく学べるように工夫されています。

ホテルでの接客場面として「チェックイン」「部屋の案内」「両替」など10の場面が取り上げられています。このほかに、「おもてなしの心を表わす表現」「行き届いたサービスを伝える表現」という項目があり、ホテルで宿泊客に対応するときなどにどんな点に注意するかについても触れています。例えば、「かしこまりました」と言わなければならないときに、同じ意味の「わかりました」を使うと客はあまりいい気持ちになれないなど、初級で学習した表現でも話す相手によっては使わないほうがいい例もあげられています。

また、ホテルでよく使うことば(例: 禁煙フロア、宅配サービスなど)や日本人の名前、「1名様」などの助数詞について、何種類かの覚えるための練習や発音練習がついています。

発音練習では図や記号を見ながら正しい発音のイメージがつかめるようになっていきます。文末の「ね」「よ」など、聞く側の日本人の印象を考えた発音上の注意点も取り上げています。

この教材を教室で使う場合には、場面会話を覚える練習を行ったあとに、発展練習として、予想外の客の反応があったときの対処法について話し合ったりすると、より実践的になるでしょう。



P. 92

### 上級の聴解力をつけるコツがわかる

#### 『上級の力をつける聴解ストラテジー』上下巻

##### データ

1 川口さち子、桐生新子、杉村和枝、根本牧、原田明子 2 凡人社 〒102-0093 東京都千代田区平河町1-3-13 菱進平河町ビル1F TEL.03-3263-3959 FAX.03-3263-3116 URL www.bonjinsha.com 3 上2003年6月10日 下2003年9月30日 4 上4-89358-542-8 下4-89358-543-6 5 上B5判46ページ 下B5判56ページ 6 各2,520円 7 上下巻とも別冊本文スクリプト解説、CD付き



本書は、上級の聴解力をつけるための練習問題集です。人は何かを聴くとき、その目的にあった聴き方をしています。母語を聴くときは、自然にその目的に合わせて、知りたい情報に注意して聴いたり、話している人の意図をくみ取ろうとしたりすることができず。しかし、外国語の場合はそのことばを聞き取るためのコツがうまく使えないのでそれがなかなかできません。本書では、このコツを「聴解ストラテジー」と呼んでいます。

上巻・下巻を通して8章で構成されていますが、章ごとに聴き取りの目標、聴き取り方法などが設定され、全部で7種のストラテジーが紹介されています。学習者は、特定のストラテジーを意識する練習を通して、自然にこれらのストラテジーが使えるようになり、聴解力を伸ばすことができるでしょう。

- 取り上げられているストラテジーは、次の7種です。
- 音声の特徴をつかむ (1章)
  - 場面・状況をつかむ (2章)
  - 必要な情報を聞き取る (3章)
  - 大意をつかむ (4章・8章)
  - イントネーションから発話意図をつかむ (5章)
  - 話の展開を予測する (6章)
  - 図や絵や文字を見ながら聴く (7章)



P. 55

たとえば5章では、同じ「今度の先生、いい人じゃない。」という文を聞いて、声の調子から4種類の発話意図を聞き分ける練習があります。学習者はこのような練習に取り組むことによって声の調子が発話意図に大きく関わることを意識できるようになるでしょう。

本書の練習問題は、配列どおりに進めていくと、同じタイプの練習が続き学習が単調になってしまうかもしれません。その場合、複数の章を取り混ぜて練習していくとよいでしょう。

教室活動の幅を広げる  
きょうしつかつどう はば ひろ

『日本語 Total Communication 絵カードブック』  
にほんご え

データ

1 高岸雅子 2 凡人社 〒102-0093 東京都千代田区平河町1-3-13 菱進平河町ビル1F TEL.03-3263-3959 FAX.03-3263-3116 URL www.bonjinsha.com 3 2003年10月5日 4 4-89358-547-9 5 B5判88ページ 6 1,890円

外国人留学生が日本の社会で出会うであろう、場面・状況が描かれた絵カード集です。B5サイズで白黒、全部で44枚です。カードは切りはなして使うことができます。

絵カードは「困ったときの対処法」「文化の違い」「公共の場でのマナー・ルール」「外国人と地域住民の交流」「大学生活」などについて、36のトピックからなっています。どのカードも外国人留学生と日本人や日本社会との間で起こりそうなトラブルの場面を中心にイラスト化したものです。これから留学する学習者だけではなく、日本社会や日本人に興味を持つ学習者のためにも使えます。



P. 30



P. 31

絵カードの裏には次のような情報が載っています。①「関連語彙」；そこでの会話や場面の説明に必要な語彙。②「話し言葉」；登場人物が話す言葉。③「ヒント」；教室活動、課題の例。

ほとんどが1トピックに1枚の絵ですが、2枚か3枚で一連の場面になっているものもあります。教室では、そのような場面で、どう言語行動をとるかを取りあげて、日本語学習をすすめることができます。ストーリーテリング、ロールプレイ、スキット作成、ディスカッション、作文など活用方法はさまざまです。絵を見せて、学習者に自由に課題を発見させ、それを取り上げるといった使い方もできるでしょう。

著者も巻頭で述べているように、初級レベルの学習者には、文型の導入や練習に活用できます。教師の工夫次第で、文化理解を視野に入れた、いろいろな活動に利用できると思います。



話し手の気持ちや判断を表す表現が学べる

『日本語文法演習 話し手の気持ちや判断を表す表現—モダリティ・終助詞—』  
にほんご ぶんぽう えんしゅう はな て きも あらわ ひょうげん しゅうじょし

データ

1 三枝令子、中西久美子、編集協力 庵功雄 2 スリーエーネットワーク 〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-6-3 (松栄ビル) TEL.03-3292-5751 FAX.03-3292-6195 URL www.3anet.co.jp 3 2003年10月10日 4 4-88319-281-4 5 B5判84ページ 6 1,365円 7 別冊解答付き

この教材は、日本語を適切に産出することを目標に出版された『上級レベル日本語文法演習』シリーズの四冊目です。

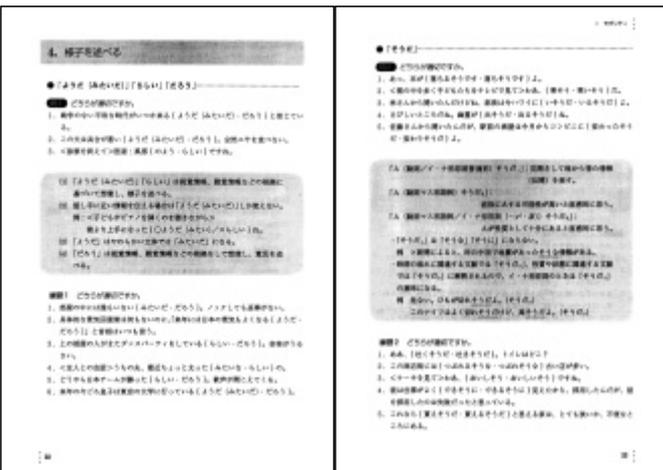
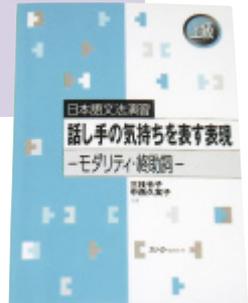
モダリティ・終助詞は話し手の気持ちや判断

を表すものだから、その使い分けには、場面や人間関係などの条件が作用しています。たとえば、診察を終えた医師が言うことばとして、「風邪のようですね」と「風邪らしいですね」はどちらが適切でしょうか。食事によばれたお宅で言うことばとして、「これおいしいですよ」と「これおいしいですね」のどちらが適切でしょうか。そういった問いに対して、どのような形式を使えばいいのか、そしてどのような使い分けのルールがあるかを提示しています。

モダリティの章では、「ようだ」「そうだ」「らしい」などの様子を述べる表現のほか「と思う」「と考える」「と思われる」「とはかぎらない」のよう

な断定を避ける表現、「のではない」「わけではない」のような否定の表現、「だろう」「かもしれない」「かねない」などの想像して述べる表現、さらに意思・必要、義務・必要、可能・不可能の表現が取り上げられています。また、「のだ」「わけた」はこの本では取

り上げられていませんが、別のシリーズで取り上げる予定だそうです。終助詞としては、「よ」「ね」のほか、「って」「っけ」「な／なあ」「わ」「だ」「か」などが取り上げられています。構成は、これまでのシリーズと同じく、ウォームアップから始まり、問、ルール、練習、総合練習へと進むようになっていきます。日本語学習者だけでなく、日本語の指導に携わる方も参考にできる一冊です。



P. 22

P. 23



P. 75

日本語の規則性と体系的が見えてくる入門書

『やさしい日本語のしくみ』

データ

1 庵功雄、日高水穂、前田直子、山田敏弘、大和シゲミ 2 くらしお出版 〒112-0002 東京都文京区小石川3-16-5 TEL.03-5684-3389 FAX.03-5684-4762 URL member.nifty.ne.jp/kurosio/ 3 2003年10月1日 4 4-87424-284-7 5 A5判93ページ 6 1,050円

みなさんは日本語の規則性や体系的について考えたことがありますか。

本書では、日本語の持つ規則性や、日本語が体系を持っている点に着目して、それを「日本語のしくみ」と呼んでいます。そして、「日本語のしくみ」が見えてくるさまざまな現象を取り上げて、それを理解するのに必要な知識や観点を読者に与えます。いわば、日本語学の入門書と言えるでしょう。また、教科書やシラバスに沿って各教授項目を教えることに集中している教師にとっては、これまでばらばらに意識していた知識を関連づける新たな視点を与えてくれるガイドブックとも言えそうです。

1章では音声・表記から日本語を概観し、2章では文法を体系的にとらえ、3章では省略・とりたて・授受表現・敬語・「は」と「が」などの日本語らしさを考察し、4章では歴史的变化・地域差・社会的関係などの多様性を紹介しています。項目は全部で28項目です。ここに項目名と副題の例をご紹介します。使役——コロンプスの卵「卵を立てる」(2章)、とりたて助詞——「コーヒーしか飲まない」はコーヒーを飲むの? 飲まないの? (3章)、ら抜きことば——「見える」も「着れる」も歴史の証人(4章)。このように本当は難しいテーマを、身近な感覚で読みやすく書いているのが本書の特徴です。また、各章には2つずつコラムが盛り込まれています。これだけの内容がわずか93ページに収められています。

本書を読んで、日本語はおもしろいと感じた読者には、巻末の「もっと学びたい人のために」と「この本を書くために参考にした文献」が役に立つでしょう。



P. 61

日本語辞書に載っていない若者ことばの意味がわかる

『若者言葉事典』

データ

1 亀井肇 2 日本放送出版協会 〒150-8081 東京都渋谷区宇田川町41-4 TEL.03-3780-3339 FAX.03-3780-3396 URL www.nhk-book.co.jp 3 2003年7月10日 4 4-14-088073-2 5 新書判218ページ 6 714円

「お父さん、明日も日曜出勤するって『まじっすか?』」「うん、仕事忙しいんだ」「それで、まだ課長になれないなんて、『まじっすか?』」「お前、親をバカにしてんのか?」「いえ、本当に疑問に思ってるだけっす」(本書209ページ)

みなさんはこの会話の意味がわかりましたか。日本語の授業で勉強しているのは「共通語」と呼ばれ、これは日本全国どこに行っても誰と話しても通じます。しかし、実際の日本語をもっと細かく分けると、決まった性別・年齢層・職業に属する社会集団だけが使うことばもあり、そのことばは、その集団に入っていない人には意味がわからないことがあります。

本書は、辞書には載っていない新しいことばを340語集め、「女子中高生」「OL・主婦」「男社会」という4つの社会集団別に分けて解説を加えた本です。事典という題名がついていますが、新書(軽い教養の本)なので、時間が空いたときに読むことができます。

たとき好きなページから気楽に読むことができます。イラストも豊富にありますので文章だけではわかりにくい細かい意味が簡単にイメージできますし、類語、使用例、参考、反対語、変形例もたくさんあって見出し語の補足ができるように工夫されています。

もともとは若者ことばをとおして彼らの考え方までも理解するという目的で書かれた大人の

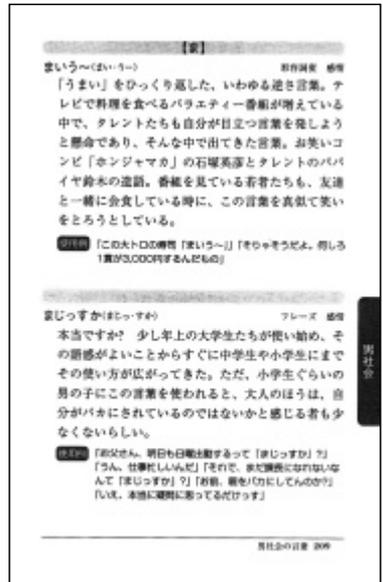
日本語母語話者向けの本ですが、海外では、教師が若い学習者を相手に日本事情の授業をするためや、上級レベルの若い学習者が同じ世代の日本人の考え方を理解するための参考書としても使うことができます。

これらのことばは使える相手や場面が限られ、死語になるのも速い

め「共通語」の習得を目標とした学習者がわざわざ覚えて使ってみる必要はありませんが、ばらばらと読んでみるだけでも、日本の若者の発想力の豊かさやおもしろさに触れることができるでしょう。



P. 40



P. 209

P.16~18は以下の日本語国際センター専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。

- 18 古川嘉子、木山登茂子 (5 番目の記事も執筆)、長坂水晶、久保田美子、押尾和美 (執筆順)